

て検討する。

レベリングについては国土地理院に可及的速かな実施を強く要請することにする。

3) 赤外線写真による火口内外の地温測定

これについては気象庁（気研）が航空機による写真撮影を本年度1回予定している。京都大学は同じ方法で第2回目の撮影を行なえるよう努力する。

以上、京都大学と気象庁を主軸に観測を強化して、必要の場合幹事会で資料の予備的検討を行なう。

2. 日本全国の火山のカタログ作成

連絡会で申し合わされた火山カタログの作成については、この方面のエキスパートである諏訪委員にカタログ案の作成を依頼し、次回連絡会までにできるだけ作業を進めてもらうことにした。直ちに同委員に連絡して了承をえた。

（末広幹事記）

京都大学・気象研究所：桜島観測計画打合せ

日 時：昭和49年7月27日（土） 10：00～12：00

場 所：気象研究所

出席者：加茂、長宗（気研）、田中（気研）、浜松（連絡会庶務）

打合せ事項

7月16日幹事会の協議結果に基づき、観測の年次計画の説明および本年度実施計画について、以下の資料に基づき具体的な打合せを行なった。

（気象研究所地震火山研究部資料）

「火山噴火予知の研究」に基づく研究概要

（桜島について）

1. 研究の方針

気象研究所における研究は、気象庁がルーチン業務として採り入れるための火山活動監視に有効な観測種目、観測方法、結果の活用（利用）法等の開発、既定観測結果の利用法の改良、などをおもな目的として実施する。

2. 実施項目

- a. 航空測量による地形変化の解析（昭和49,50年度）
- b. 航空機搭載型赤外線走査計による火口周辺の温度測定（昭和49,50年度）
- c. 傾斜観測（昭和49年度桜島、昭和50年度阿蘇山）
- d. ジオディメータによる土地伸縮量の測量（昭和49,50年度）
- e. 火山性震動の解析（昭和49,50年度）

3. 実施要領

2-a項、b項：昭和49年度は1回、できるだけ早い時期に実施する。測定範囲は、南岳火口を中

心として約1.5Km平方

2-C項：A, B, C 3点において観測する。

A点（有村一既設—鹿児島地方気象台で記録）

B点（有村に対し島の反対側にあたる、島の北側、白浜付近に設置）

C点（島の東側、あるいは袴腰観測所付近に設置）

ただし、B, C点については近日中に具体的に地点を決定する。測器は3地点とも同型

2-d項：傾斜観測と対比させて実施したいので、できるだけ傾斜観測点近くに測線を設置する。

また、業務化の可能性を考慮して、鹿児島地方気象台等から直接測定可能な測線を選定する。

これらを考慮して、別図のような測線を計画している（別図は後日別掲のように具体化されたので省略した）。

（京都大学防災研究所附属桜島火山観測所資料）

A. 火山噴火予知計画昭和49年度実施項目

1. 火山性地震観測網の新設および整備

(1) 新設 白浜地震計設置点：テレメータ化して火山観測所で自動記録。

(2) 整備 (イ) 権現山地震計設置点：専用線埋設し、黒神分室よりテレメータ化して火山観測所で自動記録

(ロ)既設の引ノ平、北岳、小池観測点については上記の各点とあわせて自動記録化。

2. 九州地区火山地震移動観測班設置（臨時事業）

(1) 移動観測車に14ch（当面7ch）の地震自動記録装置を搭載。

(2) ジオディメータ設備

B. 火山噴火予知連絡会幹事会協議事項にもとづく実施項目について

1. 錦江湾沿岸での地震観測点増設

京都大学で担当して、2か所（国分および垂水付近）増設しルーチン化に努力する。その後文部省の尽力により地震計1セットを各務記念財団の研究助成金で購入し設置することになった。

2. ジオディメーターによる測地測量

京都大学は従来の測線に加えて主に桜島の東西面で測線を強化する（第1図参照）。基本的基線については気象研究所と協議の上実施時期を同じくするが、一部の基線については高頻度に測定を実施する。

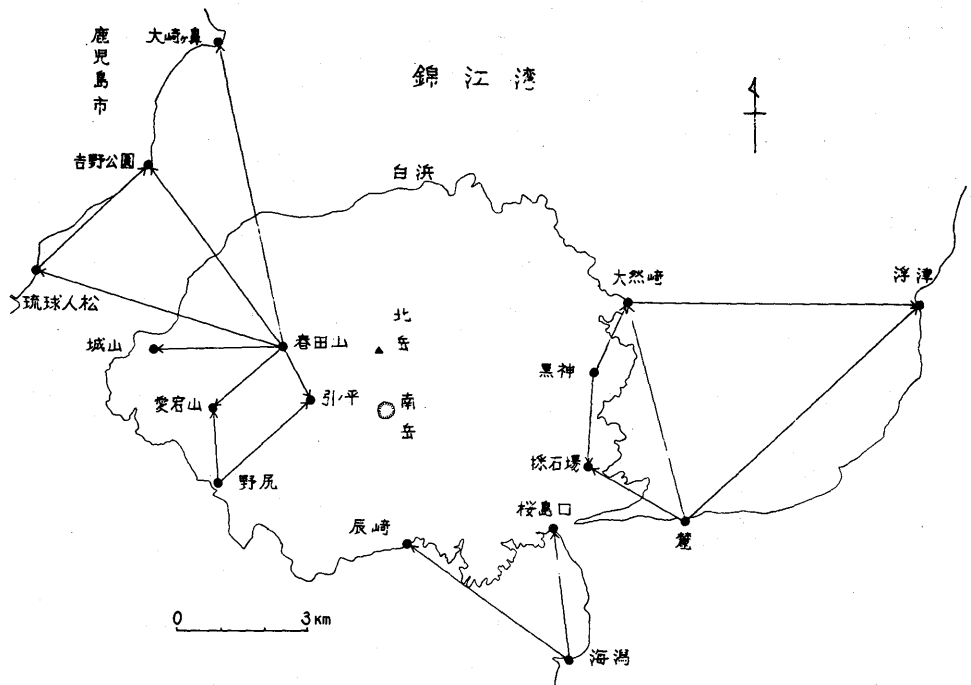
3. 赤外線写真による火口内外の地温測定。

京都大学では文部省と協議の結果、予算化の見通しがついたので次の方針で実施する予定である。

(1) 火口内外のみならず錦江湾の一部も含む広範囲を撮像する。

(2) 気象研究所実施と時期をずらし、できれば撮像機種を変えて、活火山の熱分布測定上の問題点を検討する。

(3) 熱分布のみならず自然侵蝕や植生の問題も検討できるデータが得られるように努力する。



第1図 光波測量測線

京都大学

昭和49年8月気象研究所選定

桜島における傾斜計設置点、ジオディメータ測線および阿蘇山におけるジオディメータ測線

1. 桜島傾斜計設置点

1) 北側観測点：鹿児島市高免町、民家（木毛工場あり）の宅地内？

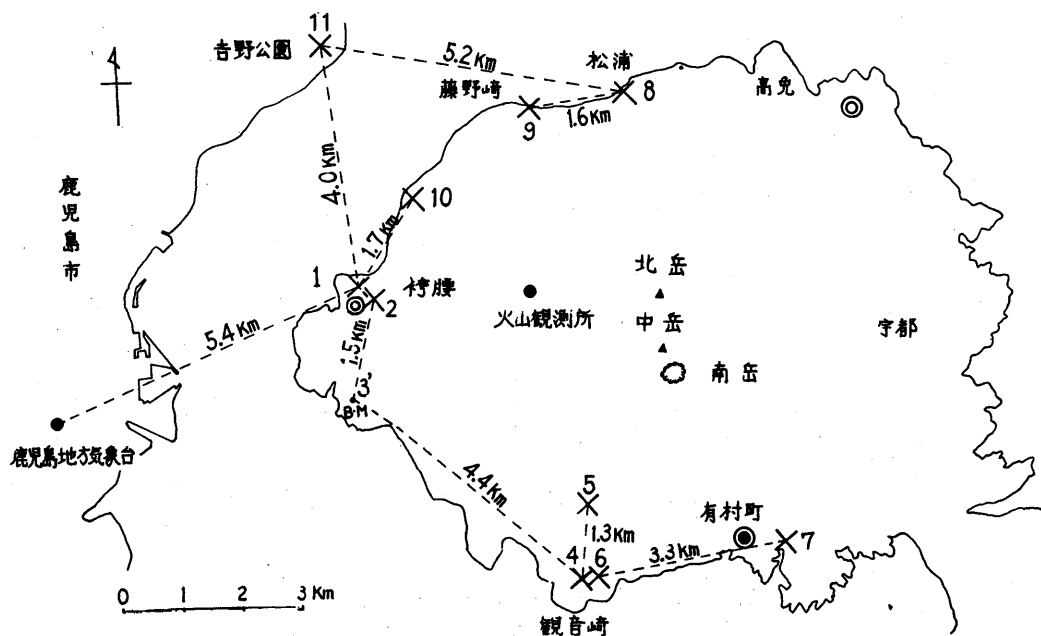
ビワの木（5年位）1本予定地付近にある。商用電源からは20～30m。

2) 南側観測点：観音崎近くの丘の上。鹿児島地方気象台火山観測点のC点送信点の隣り。民有地。電源は送信点からとれる。

2. 桜島ジオディメータ測線

第2図のとおり。

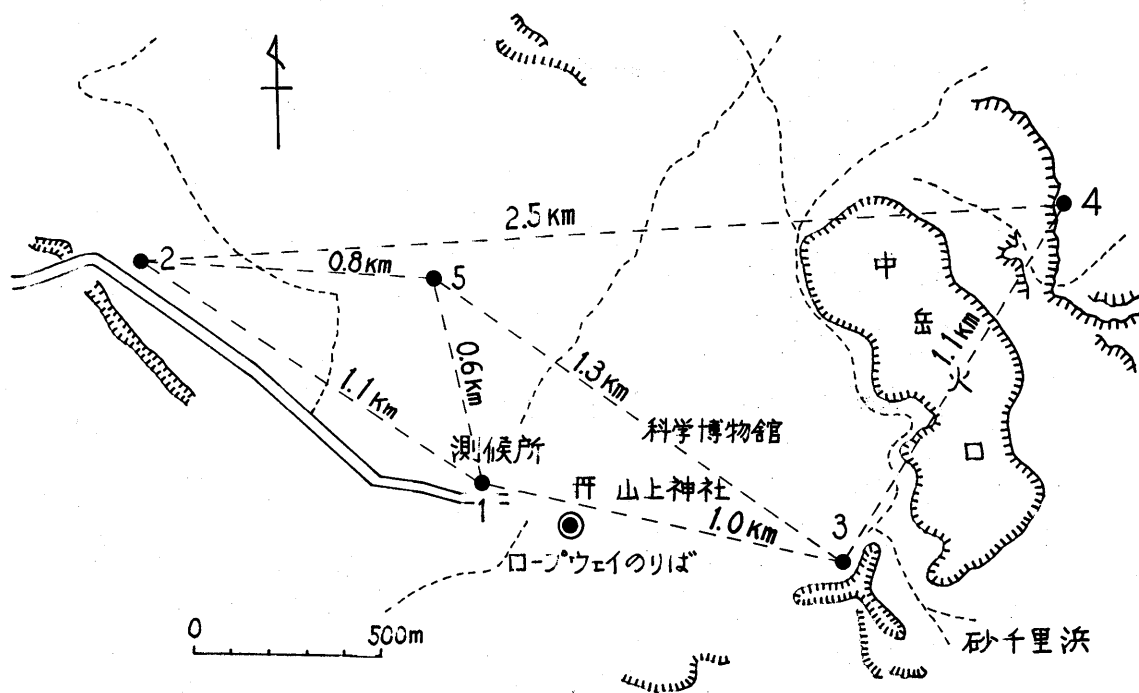
標石番号	備	考
1	袴腰高台上。コンクリートブロックを埋込む。	
2	" "	
3	大正溶岩台地、国道わき、メタルをコンクリートで固定する。	
4	傾斜計の南側観測点はほとんど同じ所、コンクリートブロックを埋込む。	
5	農道わき。コンクリートブロックを埋込む。	
6	(未 決)	
7	国道わき。コンクリートブロックを埋込む。	
8	松浦部落、道路わき空地。コンクリートブロックを埋込む(上面はG.L.とする)。	
9	道路わき。メタルを埋込む。	
10	" "	
11	県立公園展望台。	
3'	国土地理院 4等3角点。	



第2図 桜島 傾斜計観測点およびジオディメータ測線

⊙...傾斜計、48年度設置
 ⊙...傾斜計、49年度設置
 ×-× ジオディメータ測線

3. 阿蘇山ジオディメータ測線
第3図のとおり。



第3図 阿蘇山 光波測量用標石